

1. はじめに

本校において高等教育機関としてふさわしい質の高い教育を行うために、カリキュラムの見直しや設備の充実をはじめ、企画・教務部や各学部においてさまざまな改革や試みがなされてきた。それらが効果的にかつ実質的に実施され、成果をあげていくためには、各種制度の運用や実行についての組織的支援体制の確立と運用、そしてITを利用した教育支援システムの活用が不可欠である。しかし、本校においてITを利用した教育支援システムは教員を対象とした事務部門で一部運用されているが、教員と学生へのサービスを意図したシステムは残念ながら存在していないのが実情である。そこで教育支援システム(教育支援情報をデジタル化したサービス)の構築を目指すテーマを研究とした。教員と学生間の情報伝達をスムーズに行えるようにする。学生生活が便利になることを目指す。

2. 機能

教育支援には以下のものをあげることができる。

・資料参照

授業等で配布したプリント、画像などを閲覧できる。

・レポート提出

実験レポートなどを提出することができる。またその提出状況も確認できる。

・授業計画参照

シラバスよりも細かく記載したもの。何月何日の授業はどういった内容かなど。事前に学習しておいたほうが良いところを記載できる。

・授業内容参照

その日の授業ごとの内容を記載する。板書の内容など。演習や宿題等のレポートの情報。

・FAQ

よくされる質問とその回答をあらかじめ記載しておくことで、それにより手間を省くことができる。

・成績照会

個人別に成績を閲覧することが可能。

上記をデジタル化してその情報を編集し、教員、学生ともに有益となる情報を提供する。学生は授業に関係する情報のみ閲覧することができ、教員側のみ編集可能とする。

3. 研究へのアプローチ

教育支援のサービスの処理系をデータベース部、インターフェース部、リレーション部の3部構成とし、共同研究者3名がそれぞれの処理系を担当することにした。データベース部が私の担当である。データベースとインターフェースの関係を図1に記載している。

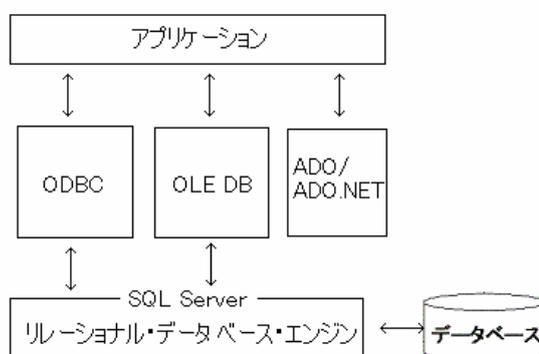


図1 データベースとアプリケーションの関係

4. 結果

データベース部の処理系を考察した結果、機能で記載したもの全てをデータベース化することにより、個人ひとりひとりの情報を閲覧することができる。それにより質の高い支援をすることができる。

本校における教育の質を高めるための支援情報を分析し、項目を挙げる。それらの項目から必要な機能を選定し、支援サービスの概要を提示した。

5. 今後の発展

今回の研究により、教育の質を高めるための教育支援サービスを洗い出すことができた。そのサービスを実装するプログラムの開発により、本校の更なる教育面の支援サービスの充実が期待できる。

文献

[1]msdn ホームページ

<http://msdn.microsoft.com/ja-jp/default.aspx>